生体機能検査学演習Ⅱ(Graduate Seminar of Clinical PhysiologyⅡ)

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
伊藤 康宏、榎本 喜彦	1年次 後 期	選択	2	48	演習	あり	巻末掲載	可

授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	生体機能検査学演習Ⅱでは、視覚・聴覚などの特殊感覚と、体位などの体性感覚に焦点をあて、ストレスへの生体反応を探る。高齢者では思考力や運動能力の低下によりストレス感が高い人が多いと言われている一方で、在宅医療の従事者にもストレス感が高い人が多いことが知られている。本講では、在宅医療にかかわる人たちのストレスによる感覚の変化や、ストレスを軽減する方法について文献読解を含めた検討を行い、学修を進める。 課題に対するフィードバック方法／レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。 実務家教員（伊藤、榎本）が講義を進める。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「専門職業人として医療に対する幅広い知識と技能を駆使し、高度な臨床検査を実践できる。」及び⑤「自ら積極的に臨床検査学の課題を探求し、主体的に解決しようとする能力と研究的視点を備え、科学的探究心を持ちながら継続的に研究を遂行できる。」の達成に寄与している。
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	1. 生体の感覚のストレス応答について説明できる。 2. 在宅医療従事者のストレス感について説明できる。 3. 複数のストレス緩和方法を説明できる。
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第1回～第24回事前学習：事前に計画されている単元について予習を行っておく／分からない用語については調べておく（各30分） 第1回～第24回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める／毎回の講義の復習を十分行うこと。英語論文を多く読み、読解力をつけること。（各30分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位15回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位15回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画		
第 1 回	潜伏感染しているウイルスのストレス応答による再活性化ついての論文読解１	榎本喜彦
第 2 回	潜伏感染しているウイルスのストレス応答による再活性化ついての論文読解２	榎本喜彦
第 3 回	聴覚、平衡覚のストレス応答についての論文読解１	榎本喜彦
第 4 回	聴覚、平衡覚のストレス応答についての論文読解２	榎本喜彦
第 5 回	体性感覚（皮膚感覚）についての論文読解１	榎本喜彦
第 6 回	体性感覚（皮膚感覚）についての論文読解２	榎本喜彦
第 7 回	体性感覚（深部感覚）についての論文読解１	榎本喜彦
第 8 回	体性感覚（深部感覚）についての論文読解２	榎本喜彦
第 9 回	迷走神経と内臓感覚についての論文読解１	榎本喜彦
第 10 回	迷走神経と内臓感覚についての論文読解２	榎本喜彦
第 11 回	迷走神経と心臓・呼吸についての論文読解１	榎本喜彦
第 12 回	迷走神経と心臓・呼吸についての論文読解２	榎本喜彦
第 13 回	セリエのストレス学説と自律神経・副腎系の読解１	伊藤康宏
第 14 回	セリエのストレス学説と自律神経・副腎系の読解２	伊藤康宏
第 15 回	高齢者のストレス感についての論文読解１	伊藤康宏
第 16 回	高齢者のストレス感についての論文読解２	伊藤康宏
第 17 回	傷病者のストレス感についての論文読解１	伊藤康宏
第 18 回	傷病者のストレス感についての論文読解２	伊藤康宏
第 19 回	看護師のストレス感についての論文読解１	伊藤康宏
第 20 回	看護師のストレス感についての論文読解２	伊藤康宏
第 21 回	在宅医療従事者のストレス感についての論文読解１	伊藤康宏
第 22 回	在宅医療従事者のストレス感についての論文読解２	伊藤康宏
第 23 回	ストレス緩和法についての論文読解１	伊藤康宏
第 24 回	ストレス緩和法についての論文読解２	伊藤康宏

評価方法 評価基準	プレゼンテーション、レポートなどから到達目標に対する到達度を総合的に評価する（100%）		
教科書	医学書院『標準生理学』ほか	参考書等	担当教員が資料を配布する。
学生への メッセージ	ストレス感は身体からのメッセージです。ストレスは中枢神経系を徐々に侵害し、特殊感覚・体性感覚に影響を及ぼします。また、ストレスの心身への影響はHPA軸を介して全身を障害します。ストレスの意味を勉強しましょう。		